

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	コンポントム州バライ・サントウク保健行政区の母子保健状況改善
(2) 事業内容	<p>保健改善ニーズの高いカンボジア農村部のコンポントム州南部で母子保健改善を目指す事業である。具体的には、55村約4万7千の地域住民が、保健センター（4カ所）の母子保健サービスを利用するなど地域の保健リソースを有効活用し、村で病気の予防や健康的な生活を送る支援をし、村の母子保健状況を改善する。</p> <p>プロジェクト目標： 地域住民が地域の保健リソースを利用しながら、村での母子保健改善の実践者となり、母子保健改善を図る。</p> <p>活動</p> <p>1. 「母子保健ボランティア」の育成と戸別訪問活動推進 今期は新規の母子保健ボランティア54名に対する育成トレーニングを2グループに分けて実施した。産前ケア3日間、産後ケア4日間の計7日間のスケジュールで、州保健局の母子保健担当者をトレーナーとして母子保健に関する基礎知識や戸別訪問の内容を教育した。前年度に育成した母子保健ボランティア30名を含めると現在計84名となり、UNICEF育成の母子保健ボランティア36名と合わせるとターゲットである55村に120名の母子保健ボランティアが配置されたことになった。 前年度に育成したボランティアに対しては、トレーニング後の知識の再確認、活動へのアドバイス、改善点の話合いを目的に、地域の保健センタースタッフとともに今期に2回（9月と12月）フォローアップ・モニタリングを行った。フォローアップ時に母子保健ボランティアの母子保健知識、母子保健ボランティアの訪問を受けた女性の母子保健知識をチェックリストによって測定した。</p> <p>2. 「水と衛生」活動 今年度の衛生推進活動のため、チュックサック保健センター管轄内の4村を衛生モデル村として選出した。前年度のタノッチュム保健センター管轄内での衛生推進活動と同様に、選出した4村の各村から15世帯ずつ衛生モデル世帯として選出し、彼らを中心に4回に分けて衛生教育を実施する。（食物衛生、環境衛生、身体衛生、水の煮沸）また、対象モデル村4村で、衛生キャンペーンも3回ずつ（手洗い、水の煮沸、環境衛生（ごみ拾い））実施する。 今期は、このモデル4村で手洗いキャンペーンを実施した。また、衛生モデル世帯に対しては、食物衛生をテーマに衛生教育がおこなわれた。 各村から計60世帯の衛生モデル世帯がトイレ建設支援を受ける。12月にトイレ資材を対象世帯に配布し終え、トイレ建設会議を（トイレ建設のノウハウや、トイレ支援にあたっての条件、トイレの使用方法の確認）行った。その後、各世帯が主導して建設が進められて</p>

	<p>いる。</p> <p>3. 村での保健教育活動 村の保健ボランティアによって、保健センタースタッフのサポートを受けながら保健教育が行われた。題目は妊婦健診、産後健診、環境衛生、離乳食、母乳育児、デング熱、マラリアなど。 また、新しい保健教材（母乳育児と離乳食に関するフリップチャート）を作成し、ターゲット55村に配布し、保健ボランティア全員に対して新しい保健教材の内容解説と使い方をトレーニングした。</p> <p>4. 村と保健センターとのネットワーク支援 村の健康状況や妊産婦の情報交換、村人がどんな保健支援を受けられるかの情報提供することによって村と保健センターをつなぐことを目的に、毎月保健ボランティア会議、伝統的産婆会議を保健センターで実施している。保健ボランティア会議には、PHJが育成した母子保健ボランティアにも参加してもらい、母子保健情報のアップデートや啓発活動の技術を指導している。</p> <p>5. 搬送サービス導入 急病人、妊産婦、乳幼児に向けたトゥクトゥクを使った村⇄保健施設の搬送システムを実施。助かる命を救い、そして母子健診などの保健センターでのサービス利用を促進するため村に搬送サービスを導入している。 前年度に搬送サービスを導入したタノッチュム保健センターおよびその管轄村2村に対して、毎月開かれる運営会議に参加することで搬送サービスの運営フォローアップを実施中。必要な運営管理指導・技術指導を行いながら、規約やシステムの見直しを行い、より持続可能なシステム構築を探っている。 また、チュックサック保健センターとその管轄村4村、タノッチュム保健センター管轄村2村を対象に新規に搬送サービスを導入するべく準備が進められた。それぞれの村で運営委員メンバーを選挙し、組織した。運営委員会規約の説明会を行い、搬送サービスの村での運営の基盤づくりを行った。</p>
(3) 達成された効果	<p>1. 「母子保健ボランティア」の育成と戸別訪問活動推進 前年度に育成した母子保健ボランティア30名は、各村で妊婦健診・産後健診受診や保健センターでの分娩を促進する活動を行っている。活動フォローアップの結果、母子保健ボランティアの母子保健に関する知識に関して、トレーニング直前は平均して50%前後の正答率だったのに対し、12月に実施されたフォローアップでは平均して82%まで上昇していた。また、母子保健ボランティアに訪問を受けた女性の母子保健知識はトレーニング直後平均して50%前後だったのに対し、12月フォローアップ時には平均して80%の正答率となっており、母子保健ボランティアと村の女性たち双方に知識の向上が見られる。</p>

	<p>2. 「水と衛生」活動 今期はまだ始まったばかりの活動で、実施した衛生教育の数もまだ少ないので効果と言えるものはまだ出ていない。</p> <p>3. 村での保健教育活動 今期は計 52 回の保健教育を実施し、一回の教育につき村人の参加人数は平均して 40 人であった。 保健教育前と保健教育後の知識テストの結果によると、全村の平均で、知識の習得度は教育前の 59%から教育後 92%までに上昇した。</p> <p>4. 村と保健センターとのネットワーク支援 保健センターと保健ボランティアや伝統的産婆の情報共有の頻度や質は（これも毎月のチェックリストでスコアにして評価）、保健センター⇄保健ボランティアで 94.5%、保健センター⇄伝統的産婆では 91.8%の結果となった。村の保健ボランティアや伝統的産婆を通して村人が保健センターにサービスの改善を求め、また保健センタースタッフが村人の抱える健康問題を個人レベルでいち早く察知し早期の受診を促すなど、ネットワーク支援による効果が出ている。</p> <p>5. 搬送サービス導入 これまで、計 41 件の搬送実績。内訳は村⇒保健センターが 15 件、保健センター⇒病院が 26 件である。毎月平均して 2, 3 程度安定して緊急搬送目的で当サービスが使用され、村でサービス利用が徐々に浸透してきていると思われる。 搬送のケースとしては、出産が多数を占める。その他は、出血などの妊婦の異常、結核・糖尿病などの症状悪化、事故が挙げられる。</p>
(4) 今後の見通し	<p>1. 母子保健ボランティアの育成と戸別訪問活動推進 PHJが育成した84名の母子保健ボランティアの村での活動に対するフォローアップ・モニタリングを継続して行う。 また、同対象地域においてUNICEFによって育成された母子保健ボランティア36名も含めて計66名を対象にリフレッシュ・トレーニングを開催する。</p> <p>2. 「水と衛生」活動 継続して衛生モデル世帯に対する衛生教育や村でのキャンペーンを実施していく。また、現在進行中のトイレ建設および建設後のトイレ使用状況モニタリングを毎月行っていく。</p> <p>3. 村での保健教育活動 村での保健教育活動を継続実施する。プロジェクト終了後のハンドオーバーを見据えて、保健ボランティアの保健教育の技術が低いなどの問題がある村で優先的に保健教育を実施するようにし、活動のフォローアップを集中的に行っていく。来期は、新しい保健教材、</p>

ポスター、Tシャツを作成する予定。

4. 村と保健センターとのネットワーク支援

各会議を継続して支援していく。この活動もハンドオーバーを見据え、保健センタースタッフの関与度が高く、ボランティアとの協力関係が良好である地域には、会議を自ら運営してもらうように徐々にPHJの関与を下げていく予定である。

5. 搬送サービス導入

サービス導入済のタノッチュム保健センターと管轄村2村は、3月のハンドオーバーを目指す。

また、チュックサック保健センターとその管轄村4村、タノッチュム保健センター管轄村2村での搬送サービス新規導入に関しては、3月稼働開始を目指し準備を継続して進めていく。導入後はフォローアップ・モニタリングをしていく。

母子健診目的の搬送利用率も上げたい。そのために、案内ボード、メンバーシップへ向けた説明書を配るなど、広報活動に力を入れる。